

# 平成25年度 校区外部評価 自己評価表(まとめ)

学校名 品川区立御殿山小学校

## 【学校評価表の作成および評価にあたっての留意事項】

○各学校では、それぞれの項目ごとに「本校の基本的な考え方」を記入してください。  
また、教育委員会事務局が示した「評価指標(黄色い部分)」のほかに、各学校で、必要に応じて評価指標を設定してください。その際は、各学校の重点的な取組と関連させて評価指標を設定をしてください。なお、必要に応じて行を増やしていただいてもかまいません。

○校区外部評価委員による外部評価委員会が開催される前に、学校は、自己評価結果(取り組みの状況や変化等)について、必ず説明をしてください。  
(校区外部評価委員は、その説明と実際に自分が見た学校の状況等により、評価します。)

## 【校区外部評価委員の皆様へ】

☆評価をする際には、実際に授業等を見た内容だけでなく、学校が説明した内容、聞き取った内容も十分に参考にしてください。従いまして、評価のために必要と思われる情報や資料につきましては、遠慮なく学校にご請求くださいますようお願いいたします。

評価項目1 基礎学力の定着

本校の基本的な考え方 <small>(特に身に付けさせたい力、重点的な実践内容など)</small>	基礎学力とは、「児童・生徒が生涯にわたって学び続けようとする態度とそれを支える知恵」と捉え、自ら進んで学び解決できる子、進んで表現し課題を解決できる子、自信をもって解決できる子の育成を図る。					
	評価指標	自己評価		校区外部評価委員による評価	学校から	
評価		評定についてのコメント	自己評価についてのコメント	校区外部評価についての教職員の意見	校長の態度表明	
①児童・生徒は、学習の構え(学習するぞという雰囲気、学習の準備)ができています。	B	はじめをつけ学習に熱中している。上級生になるに従って身につけている。概ねできているが、一部気持ちのきりかえができず学習にむかえない児童がいる。	ほとんどの学級でスムーズに学習が進められている。学習の保障がされている。一部に集中していない児童も見られる。	どのクラスもスムーズに学習がすすめられているが、どの児童も学習のルールを守ってより集中して学習に取り組めるようさらに学級経営に気を配っていく。	対応に苦慮する児童も一部には見られるがこれからも組織的対応をしながら指導していく。	
②児童・生徒は、授業中、教員や友達ときちんとした言葉でやり取りをしている。(単語や挙手だけの応答となっていないか。)	B	授業中はほとんどの児童がきちんとした言葉遣いをしている。誤った言葉をつかったときにはその都度指導をしている。一部の児童の言葉がきついている。	継続して行うことが大切である。教員も丁寧な言葉を使うとともに、児童の発表内容が分かるように、声量や反復などの指導を工夫されたい。	発言の仕方(挙手・声量など)や言葉遣いなど継続して教えていける。できなければその場でやり直して意識付けていく。	本校独自の学習のきまりの更なる定着を図るとともに、教員自身も心がけていかなければならない。	
③教師の指導に、メリハリをつけている。	B	授業の工夫、また本時のめあてをもって行っている。	授業の準備ができていいる。視聴覚機器の活用及び適切、効果的な使用方法を工夫されたい。	校内研究会、4校合同研、2・3年次研修会、合同学年会などお互いの授業を見て意見をかわすことで指導の工夫を重ねている。新校舎での学習に向け、視聴覚機器も整備しよりよい指導ができるようにしていきたい。	教員個々の研修も大切である。自主研修に励む教員育成をしていく。	
④教師は、価値のある体験活動を実施している。(見ている、その体験活動の意味やねらいが分かるか。)	B	外部講師による授業や見学等多く行った。出前授業を積極的に取り入れている。	学習のねらいを明確に達成される活動であるか検討し、振り返りの学習を適切に取り入れている。	今年度を実施した体験学習や見学、ゲストティーチャー等の学習を来年度も取り入れていく。また体験して終わりにならないようにまとめやふりかえりもきちんと時間をとって行っていく。	今後も体験学習や振り返り学習を多く取り入れていきたい。	
⑤本校独自の学習規律を守っているか。	B	規律の「ねらい」を重視し、規律を守らせる指導は複数の選択肢があつてよいと思う。御殿山のきまりを守るよう指導している。守られている。全体的にはできている。	学習のルールは、繰り返し指導して習熟をするようにしたい。また、本校独自ののものであつても7年生に通じるものであるよう意識できるとよい。	御殿山のルールを1～6年生が理解して自ら守っているように指導していく。また中学校でのルールも4校研や小中一貫の日の交流会などで情報交換しスムーズに中学校生活に入っていけるよう配慮していきたい。	あたり前のことがあたり前にできるようにしていきたい。	

自己評価: A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかという当てはまらない D=当てはまらない

## 評価項目2 社会性・人間性の育成

評価指標	自己評価		学校から	
	評価	評定についてのコメント	自己評価についてのコメント	校長の態度表明
本校の基本的な考え方 (特に身に付けさせたい力、重点的な実践内容など)	社会性・人間性の育成は、基本的な生活習慣はもとより、人間関係の良好な形成や規範意識の高揚と子供一人一人の感性を醸成する活動を十分に与えることによって高められた社会的役割を認知するものであると捉え、これを通して人間尊重の精神・態度をはぐくむ。特に・意見の違いや立場の違いを理解する子・自分と周囲の人々と物事の関係性を理解する子・他人に働きかけ巻き込む子・進んで活動し元気が活気あふれる子・最後まで粘り強く取組む子・心身ともに健康な子の育成を図る。			
①学校は、市民科の授業を計画的に実施している。	B	家庭との連携を多くとった。指導計画をたてて実施できている。行事や実態に合わせて指導している。他教材との関連を考え、計画的に実施している。	定着が図られている。市民科は、小中一貫教育の要であるので、7～9年生でどのような学習へ発展していくかを把握して進められたい。学習成果を実践する場を検討して工夫されたい。	高学年の市民科では、5～7年生の単元構成の基、各領域において年間計画に従い、また児童の実態に応じた指導を今後も努力していく。
②教師は、あいさつや礼儀、場に応じた行動など、しつけるべきことをしっかりと指導している。	B	教職員が共通認識のもとに指導することができた。朝会や学校全体として取り組んでいる。しかしまだ身についていない子がいる。まずは家庭が行うべきことを位置づけ学校はそれを補う役割だと思う。家庭への啓発が必要。かなり指導しているが定着まではむずかしいことがある。	教職員は、日々指導を進められている。「挨拶は」無理やりするものではないので「顔を見て」心であいさつできる子が増える」とよいと思う。校内における、場に応じた行動の指導の徹底が大切です。また、家庭との連携で継続的に指導されたい。	今年度末、高学年児童が登校時に挨拶が上手だった児童を放送で伝える取り組みを行った。この取り組みでは児童が挨拶の際に「お辞儀をしたり」「相手の目を見る」ということを意識する等の変化が見られた。今後も児童が心を込めてあいさつができるように取り組みを工夫し、また家庭とも連携していきたい。
③児童・生徒は、市民科で学んだことをもとに適切な行動をとろうとしている。(市民科で学んだことが日常生活の中で定着しているか。)	A	「あいさつへの意識が高まってきた。時間がたつと実行していたものができなくなることがある。家庭と連携して授業をすすめているが、定着していないところがある。市民科で学んだことを日常での活動のなかで徹底されていない。適切な行動をとろうとしている時間がたつとセットされる。家庭にも内容を伝え、家庭の協力を得たほうがよい。あいさつや廊下歩行などは一時的によくなるが、継続的な指導が必要。スキル学習(ステップ3)の時間が不足しているときもある。意識は身についているが行動がともなわない。	学習の成果が実践される場を具体的に検討し、(ステップ)日常生活に生かされることが重要であるので、家庭との連携もとのようにしていくか確立するとよい。	社会のきまりなど学んだことを日常の行動に実践することが重要である。今後も家庭との連携、スキルトレーニングや日常実践の単元内容の充実を図り、しっかり身につけさせたい。
④教師が範を示している。	B	教員同士で声をかけあっている。教員がまず気持ちのよいあいさつをするようにしている。	親や教師が、模範を示すことが大切。挨拶だけではなく、日常の連絡等の会話も大切です。	自分から挨拶する、廊下では会釈をするなどを意識して行動することを全教員で確認をした。児童の手本となるように、日頃より礼儀正しい言葉遣いを常に心がけたい。
⑤本校独自の生活規律を守っているか。	B	御殿山のきまりを守るよう指導している。御殿山のきまりにそって指導しているが一部身についていない子がいる。	落ち着いた学習環境が実現していることは、指導が充実している成果と思う。	全教職員が指導の徹底を図り、児童のきまりに対する意識は高めたい。

自己評価: A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかというと当てはまらない D=当てはまらない

## 評価項目3 小中一貫教育の推進

評価指標	自己評価		学校から	
	評価	評定についてのコメント	自己評価についてのコメント	校長の態度表明
本校の基本的な考え方 (重点的な取組内容など)	・学力向上の観点から… 小中一貫教育の最終目標である「自学自習の体得」を目指し、9年生での出口管理を行うために知識・技能の習得から知恵の創造に向けた教育活動を推進し、保護者・児童・地域からの信頼を得る。 ・人間形成の観点から… 「自分も相手も大切に」心をはぐくみ、正しい人権感覚を醸成することに努め、「時を守り、場を清め、礼を正す」を全ての教育活動の根拠に据えて指導することにより、高い規範意識の育成に努めていく。			
①教師は、小中一貫教育の意義を十分踏まえた指導をしている。	B	中学進学を意識して学習指導や生活指導をしているが、学習時に小中一貫を意識していることは少ない。	日野学園の英語の研究授業等参加するなど、小中のカリキュラムの内容や意義など理解を図って進められたい。また、各学年の発達課題に基づく学習内容を確実に実践することが小中一貫を進める基盤だと思います。	1～9年の年間指導計画を把握して、自分の担当する学年で何を指導することが必要か常に意識しながら指導していく。また、積極的に中学校の授業を参観する機会をもっていく。
②小中一貫教育のよさが児童・生徒に伝わっている。	B	よいところは伝えている。小中一貫という意識は児童の中にあまりないように感じる。受験する雰囲気根強く一貫校への興味が薄い。	キャリア教育の視点を明確にし、学級活動を充実させたい。小中一貫の日や教育会の実践、品川区の実践、品川区の英語教育に学校便利等で紹介・発信をさらに充実させていく。市民科での将来設計領域でのキャリア教育を各学年すすめている。	9年間のうち、6年間は責任をもって指導するとともに、スムーズな連携が図れるよう今後も小と中の情報交換を行っていく。
③学校は、保護者・地域に、小中一貫教育のよさを理解してもらおう努力をしている。	B	よくやっていると感じる。一体型でないため伝わりにくい。	情報発信は、工夫して行われている。学年・年齢に応じた、活動スタイルなどを紹介するのも理解を図る一つと考えます。	保護者会や学校だより等いろいろな場面で品川の一貫教育の考えや取り組みを知らせしていく。
④連携型一貫校としての取り組みができていくか。	B	連携校に授業を見に行ったりいっしょに研修したりしている。4校合同の研究や情報交換をしている。4校研究授業やスペシャリスト授業の取り組みをしている。ただ連携という点では、今一歩でありどちらかというと御殿山小独自の教育が優先している。	小中児童生徒の成長の実態把握や地域での共通活動の情報交換などを充実させる。また、小中の連携を通して、教員間の力を互いに向上させるように継続して進めたい。	これから4校合同の研究や小中一貫の日の意見交換などで各学校の取り組みを知り本校の教育に生かしていく。

自己評価: A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかというと当てはまらない D=当てはまらない

## 評価項目4 保護者・地域との連携

評価指標	自己評価		校区外部評価委員による評価	学校から	
	評価	評定についてのコメント	自己評価についてのコメント	校区外部評価についての教職員の意見	校長の態度表明
本校の基本的な考え方 (重点的な取組内容など)	学校・家庭・地域が相互に補完し合う三位一体の融合した関係づくりを通して、三者の責任・役割を明確にし、それぞれが担う体制をつくるため、積極的な交流と意見交換の場を設定していく。 ・学校公開や授業公開、ゲストティーチャー、地域教材の活用 ・スポーツ指導者や町会長、青年部との会合や合同レクの開催 ・PTAやオヤジの会との交流 ・PTA、地域行事への参加				
①学校は、保護者・地域に対して積極的に関わったり情報発信したりしている。	A	よくやっていると思う。地域行事へ積極的に参加している。学年だよりや学校だより・授業参観で伝えている。地域の行事(駅伝やカルタ)にも参加している。学級通信等も含め発信できている。	学校・学年便りなど情報発信が適切に行われている。直接的な広報だけでなく家庭地域の組織・機関との連携で情報の発信をさらに工夫すると確かな情報となると思う。	引き続き学校だより・学校ホームページの充実を図っていききたい。また、今年度は、北品川再開発に伴い壁面への作品展示、全児童のビデオメッセージの作成など行ったが、今後も他の機関との連携を大切にしたい。	今後も保護者・地域、他機関との連携を密にしていく。
②学校は、保護者・地域の力を十分に生かして教育を進めている。	B	ゲストティーチャーや授業での補助をお願いしている。地域の人材や施設を学習に取り入れている。必要ならばサポートなどを依頼している。地域の大学・企業とものと連携協力したほうがよい。	地域の行事に関心をもつ子供を育てられるよう(私に進学する児童が多いことから)引き続き連携を深めるとよいと思う。	授業でのゲストティーチャーや補助をお願いするとともに、地域やPTAの行事には教員もできるだけ参加して地域で児童を育てていく。	過密なスケジュールの中、教員は創意工夫してPTA行事、地域行事に参加したり創意工夫の授業を行っている。これらは今後も続けていく。
③学校は、保護者・地域の声を反映した教育を進めているか。	B	改築中でも保護者・児童の要望に応じて教室等で各学年劇等の学習発表をおこなった。アンケートの実施や話を聞いて反映するようにしている。かなり意識してやっているがいろいろな意見があり、難しいところもある。	保護者による学校評価なども必要ではないか。確かな情報提供(学校の方針の伝達など)明確にすることによって建設的な要望や意見を得ることが出来ると思う。	保護者の要望に応え、来年度は1年生が3学級でスタートできるよう、教室配置も変えて対応した。学校公開や各行事でのアンケートで保護者からの要望や意見を真摯に受け止め改善していく。	各種アンケートの中味を分析し、教育活動に反映していきたい。

自己評価: A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかというと当てはまらない D=当てはまらない

## 評価項目5 環境整備・美化

評価指標	自己評価		校区外部評価委員による評価	学校から	
	評価	評定についてのコメント	自己評価についてのコメント	校区外部評価についての教職員の意見	校長の態度表明
本校の基本的な考え方 (重点的な取組内容など)	・自然をより一層豊かにすることとともに環境美化教育の推進、安全で清潔な施設・設備、学習環境を担保し、快適な生活環境・空間を作り、心の安定を保ち、健全な身体を育成する。 ・校舎内外掲示物の工夫。 ・自然環境の設備、校舎内外の整美 ・再開発、自校改築のための安全策				
①学校は、常に、児童・生徒の安全に配慮している。	A	環境づくり、指導のしかたについては安全に一番気をつけている。毎日きちんと安全点検を行い、改築にともなう変更にも対応している。改築工事に伴う校舎・校庭の配置換えに対して全教職員で対応策を考え、確認をおこなった。かなり気がつかない、危険箇所はすぐに対応している。	厳しい環境の中、安全面に配慮しながら、対応策を検討し実践されている。	改築工事に伴う、施設の安全点検と対応を迅速に行い、安全確保に努めた。今後も改築工事に伴う安全に対する意識を一層高めていきたい。来年度は、新校舎での安全対策を準備していくことが課題である。	今まで通り、安心・安全な環境整備、保守点検をしていく。
②学校は、ふさわしい環境(掲示、清掃等)を整える努力をしている。	A	教室廊下を使い児童の作品や学習の様子を掲示し交流しあっている。日頃の授業や行事など場所が限られすぎていて調整も困難。十分な活動が行えない。週4回清掃、月1回以上掲示物のはりかえをしている。教室・廊下とも整っている。廊下に荷物が落ちているのが気になる。フックを増設するか落とさない工夫が必要。教室内の整理について教員の意識の向上が必要。	校内掲示等充実している。荷物等の管理、新校舎での設備充実とともに、落としてもすぐに対応する指導を継続的に進められたい。	今後も校内掲示の充実を図っていききたい。校舎の残り使用期間が1年間しかないため、施設面の改善は難しいと思われる。荷物等の管理の指導を引き続き行っていくことで対応したい。	校内掲示は充実していると考えられる。施設面での不備は人的努力で解決していきたい。
③学校環境が児童に好ましい影響を与えているか。	B	落としても拾う雰囲気作りが必要。工事をやっているため、騒音など好ましい環境とはいえない。くつや帽子、かさの持ち帰りなどが身についている。工事中なので仕方がないが、周囲の音がうるさかったり学習場所の確保が難しかったりする。	工事の進捗状況の情報提供なども工夫して行うことによって、騒音等の不快なことも緩和するものであると思う。	主な行事の際には、工事の方に騒音への配慮をお願いしている。難しい面もあるが、騒音の影響を最小限度になるように心がけ、乗り切りたい。	学校改築中という好ましくない環境の中、最大限の努力を今後もしていく。

自己評価: A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかというと当てはまらない D=当てはまらない

## 評価項目6 いじめ防止に関する取組み

<p>本校の基本的な考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「いじめは絶対許さない」を学校経営第一の核とし、教員、児童、保護者も、いじめを見逃さないことを徹底する。</li> <li>・教職員は全校児童一人一人の様子や言動の把握し、気になったどんな些細な情報も管理職への連絡を徹底する。</li> <li>・いじめに発展する言動やいじめを発見した際は、校長が第一の指導者となり、本人及び保護者への指導を徹底する。</li> </ul>					
評価指標	自己評価		校区外部評価委員による評価	学校から	
	評価	評定についてのコメント	自己評価についてのコメント	校区外部評価についての教職員の意見	校長の態度表明
①児童・生徒アンケートや、その他の取組みを具体的に実施して早期発見に努め、発見時は組織的な対応をしている。	A	学年や学校全体で取り組む体制ができている。合同学年会・いじめ対策委員会などを実施し、計画的に行っている。学年会・合同学年会でも情報交換している。4年以上は教科担任制も行っているので互いのクラスの状態を把握し未然に防止できている。かなり幅広く取り組みも迅速である。いじめという狭い範囲にこだわらず学級経営で不安がある教員が気軽に相談できるシステムが必要。	教職員が常に情報を共有して指導に当たっており問題を未然に防いでいる様子が伺える。	今後も生活アンケート・スクールカウンセラーからの情報などを教員間で情報交換し、問題を未然に防ぐよう取り組みたい。	子ども同士のトラブルはあるものの、いじめまで発展した事例は今年度ない。いじめ0を目指していく。
②未然防止のために、市民科を中心とした指導を展開している。	B	朝の会や日々の状況に応じて声かけ、指導している。適宜指導は行っているが、工夫がさらに必要とも感じる。	全体(学校・学級)、グループ、個に応じた指導の継続をされたい。子供同士の啓発活動情報提供などを促していくことも必要である。児童・生徒役員懇話会も視野に入れて対応されたい。	今年度、代表委員会が主導になり、「いじめ根絶宣言」、「ふわふわ言葉発見ウイーク」などの取り組みを行った。今後も子供同士の啓発活動を工夫していきたい。	一つ一つの取り組みが児童に反映している。今後も続けていく。
③児童理解研修(月に1回)やいじめ対策委員会(同様)を実質的に機能させる。	A	児童理解研修で全校で実感を共有できた。共通理解をはかるのに有効。他学年の児童でも共通理解が図られている。	研修会が機能しており、良好である。継続して取り組まれたい。	児童理解研修やいじめ対策委員会を組織的、計画的に行っている。今後も継続していきたい。	共通理解・共通指導ができるようにしてきた。今後も続けていく。
④					

自己評価: A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかというと当てはまらない D=当てはまらない

## 評価項目7 学校独自の特色ある教育活動

<p>本校の基本的な考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人の児童の特性や個性・能力に応じた指導体制・内容、授業方法をとり、適切な学習環境を設定し、学力に特化した学校を創る。</li> <li>・学力の定着と向上。</li> <li>・様々ななかかわりのできる子の育成。</li> <li>・健康教育の推進</li> </ul>					
評価指標	自己評価		校区外部評価委員による評価	学校から	
	評価	評定についてのコメント	自己評価についてのコメント	校区外部評価についての教職員の意見	校長の態度表明
①学力の定着・向上のための施策がなされているか。	A	学習のねらいに対応した学習形態を工夫している。中帯・昼帯の活用、補習の実施。ステップアップ学習が、本校の児童の実態にあった形態に工夫されている。習熟度別学習を取り入れている。学習が苦手な児童によく指導している。補習の実施、反復学習の実施。放課後の補習を計画的に実施している。校内学力テストや御殿山漢字検定をおこなっている。学校全体で帯の学習や土曜授業などで取り組むドリル等を決めて取り組むとよいのではないかと。	学力向上(定着)では、様々な工夫がされ、成果を上げている。各学習の習熟度に応じた補習等の対策がなされていてよい状況である。	来年度も帯学習、ステップアップ学習、補習、特別支援が必要な児童への対応、習熟度別学習、学力テストの考察、校内漢字検定など引き続き取り組んでいく。	引き続き取り組むと同時に下位層の指導に充実を期す。
②様々ななかかわりのできる子の育成のための施策がなされているか。	B	ごてんやまタイムやたてわり清掃などたてわり班での活動が定期的に行われている。1・6年がとりの教室になっていて休み時間自然に声をかけあっている様子がみられる。行事・学年活動等とおして児童一人一人に指導を行っている。朝会で、校長がいろいろな行事やコンクール等で活躍した児童を取り上げて紹介している。たてわり班活動やふれあい給食など。異学年交流の場がもうけられているが、回数が少ないように感じる。たてわり清掃を年間2回2週間ずつ実施した。異学年交流(たてわり班)を実施している。何事にもいやがらず頑張っている子が育っている。	様々な活動を実施し、個が活躍できる場を提供されている。異年齢児童の交流の活動についても工夫して多様な活動を進め、自己有用感を高める機会を増やしたい。	たてわり班での活動を今年度も多く取り入れていくとともに、1・6年など兄弟学年での教室配置を来年度も行って日常的に交流ができるようにしていく。また地域の幼稚園・保育園との交流も多くの学年で行っていく。3年生はお年寄りとの交流も実施する。	ボランティア活動の面で消極的なところが見られるので課題としていく。
③健康教育の推進のための施策がなされているか。	B	十分なされている。健康の大切さを児童がわかっている。保健委員会週間で歯磨き指導やリラクゼーションをとりあげた。栄養士が毎日給食中各クラスをまわって指導してくれている。学校保健委員会で本校の児童の様子についてくわしく保護者に知らせる情報を提供している。	睡眠の確保、食育、体育、情報機器の望ましい活用などを視野に、総合的に健康教育を進めたい。	生活アンケート、保健学習、保健だより等とおして、家庭への啓発活動を引き続き行い、健康教育の充実を図りたい。	養護教諭、栄養士が中心となって行っている。更に充実させていく。
④					

自己評価: A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかというと当てはまらない D=当てはまらない

## その他 お気付きの点を自由にお書きください。

・校舎改築に伴う騒音や振動、また遊び場が少ない環境の中、児童は不満も言わずよく頑張っている。児童ひとりひとりに対して満足のいく進路指導や卒業式なども今まで以上にすばらしい心に残るものにしていきたい。・若手がのびのびといろいろなことにチャレンジしていける雰囲気づくりをしていく。・ルールを守らせることも大切だが、ルールがないところでどう行動するべきか考えさせることも必要だと感じる。

○本校は、校舎改築中にもかかわらず、以前と変わらず落ち着いた雰囲気、授業が実施されている。色々な状況に応じて、変更しなければならないことも多々あると思うが、校長先生をはじめ、諸先生方が柔軟にとても良く対応されている。授業の指導は、各先生の個性や年齢により当然、差違あると思いますが、児童の指導に当たって、指導方法等考えたり連携を図られて、日々研鑽されることを願っています。定期的な校内研究会だけでなく日々の教育活動でできる授業研究など具体的なシステムなど工夫されたい。

校舎改築中に、卒業する、現在の5・6年生に良い思い出が残るような指導を期待しています。学校外の建設等に関わって、安全指導について継続的にご指導をお願いしたい。

小中一貫教育については、校舎分離型の特色を生かし、カリキュラムに即して指導いただければよいと思っています。6年生が、中学進学に際して、希望と期待をもって進められるよう願っています。